

# 三千世界



過去の過ちを恥じる

愧疚於過去的過失

朽ちゆく僕に  
見守る君が笑う  
三千世界

腐壞而去的我  
守護着的你笑着  
三千世界

手を取り合う事等は  
頂に着くためには不要と  
  
天に輝く唯一となる 己  
に憧れた  
過信した魂はいつか  
全身を知らぬ孤独で震わ  
す

相互牽手之類的事情  
爲了到達頂點的話並不需  
要  
憧憬起在天空中唯一閃耀  
的自己  
過於自信的靈魂在某一刻  
會因爲不知全部的孤獨而  
震顫

地を見下ろし 性隠し  
強さを叫び  
身に纏った誇りを  
魅せつけたのさ  
けれど僅かな虚しさ  
半端な自信  
己の小ささ知る  
三千世界

俯視大地 藏起本性  
呼喊強大  
纏在身上的誇耀之物  
只是故意給世人看的虛表  
只不過僅有微微的虛無感  
半吊子的自信  
知道自己的渺小  
三千世界

両手を天に掲げた  
無責任な無限を身に浴び  
た

擡起兩手向天空高舉  
將自己沐浴在無責任的無  
限中

届かぬ故に美を嗜める

正因爲傳達不到而苦惱於  
(神的) 美

小さな僕がいた

留下小小的我

答えなど分かり切っていた

答案其實已經徹底清楚了

ここにいる

只是想留在這裏

それを認めて欲しくて…

想被認可這一點…

気高き空 高らかに

對着高高蒼天 的最高最  
遠處

弱さを叫び

呼喊自己的弱小

身に纏った誇りを

纏在身上的誇耀之物

捨ててしまおう

不如扔掉算了

欲を認め 業と知り

承認自己的慾望 知道自  
己的業因

裸になれば

全身赤裸的話

皆同じ眺めさ

所有人看起來都是一樣的

三千世界

三千世界

僕らは既に持っていたんだ

我們其實已經擁有了

小細工ばかり覚えてきたけれど

雖然記得的只是一些小聰明

「言葉」ならば胸の奥

但是重要的「話語」還在

それがすべてさ

心底  
那就是全部

---

気高き空 高らかに

對着高高蒼天 的最高最  
遠處

弱さを叫び

呼喊自己的弱小

身に纏った誇りを

纏在身上的誇耀之物

捨ててしまおう

不如扔掉算了

欲を認め 業と知り

承認自己的慾望 知道自  
己的業因

裸になれば

全身赤裸的話

皆同じ眺めさ

所有人看起來都是一樣的

三千世界

三千世界

---

どうか君よ 泣かないで

希望你 不要再哭了

この身朽ちても

就算這身體腐朽

魂はここにある

靈魂還會留在這兒

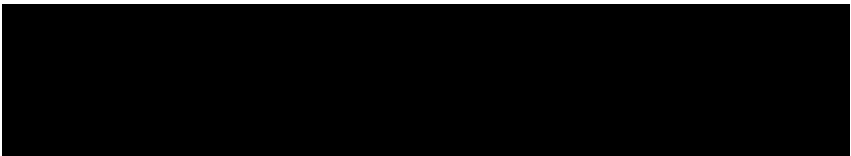
三千世界

三千世界

---

東方原曲 風神録 5面テーマ 少女が見た日本  
の原風景 (原曲)

---





《三千世界》，東風谷早苗的歌，原曲是《TH10 東方風神錄 ～ Mountain of Faith.》的 5 面主題曲 《  
しょうじょ <sup>み</sup> にほん <sup>げん</sup> ふうけい  
少女 が見た日本の原風景》。風神錄整體都可以說是圍繞早苗的故事，作為人類出身，擁有了風的能力，職業是比巫女高級一些的「風祝」，<sup>かぜ ほうり</sup>因其能力被世人認作是神明（現人神），<sup>あらひとがみ</sup>來到幻想鄉。把靈夢當作是競爭對手和前輩，處處向靈夢學習或比試，認真溫順責任感強而缺乏常識的孩子。

標題《三千世界》，來自佛教梵語，並非指三千個世界，而是小千世界中千世界大千世界合稱的三千世界。一個小世界大概對應常人所說的一個宇宙，一千個小世界就是一個小千世界，一千個小千世界是一個中千世界，一千個中千世界是一個大千世界。按計算機的單位的話，小千世界是1K世界，中千世界是1M世界，大千世界是1G世界。一尊佛渡化一個大千世界。

---

かこ <sup>あやま</sup> は  
過去の過 ちを 恥 じる

這三句歌詞合起來是一句話，因為日語的謂語後置所以翻譯順序有些顛倒。

く ちゆく ぼく 僕に

「愧疚於過去的過失」是  
定於修飾「腐壞而去的  
我」，後面格助詞「に」  
表示  
後半句「守護着的你笑  
着」的對象是中間那句  
「我」

み ま きみ わら  
見 守る 君 が 笑う

さんぜんせかい  
三千世界

て と あ こと など  
手 を 取 り 合 う 事 等 は

いただき つ ふよう  
頂 に 着 く た め に は 不 要 と

てん かがや ゆいいつ おのれ あこが  
天 に 輝 く 唯 一 と な る 己 に 憧 れ た

かしん たましい  
過 信 し た 魂 は い つ か

ぜんしん し こどく ふる  
全 身 を 知 ら ぬ 孤 独 で 震 わ す

ち み お さが かく  
地 を 見 下 ろ し 性 隠 し

つよ さけ  
強 さ を 叫 び

み まと ほこ  
身 に 纏 っ た 誇 り を

み  
魅 せ つ け た の さ

わず むな  
け れ ど 僅 か な 虚 し さ

はんば じしん  
半 端 な 自 信

おのれ ちい し  
己 の 小 さ さ 知 る

りょうて てん かか  
両手を天に掲げた  
むせきにん むげん み あ  
無責任な無限を身に浴びた  
とど ゆえ び たしな  
届かぬ故に美を嗜める  
ちい ぼく  
小さな僕がいた

---

こた わ き  
答えなど分かり切っていた  
ここにいる  
みと ほ  
それを認めて欲しくて…

---

け だ そら たか  
気高き空 高らかに  
よわ さけ  
弱さを叫び  
み まと ほこ  
身に纏った誇りを  
す  
捨ててしまおう  
よく みと ごう し  
欲を認め 業と知り  
はだか  
裸になれば  
みんな おな なが  
皆同じ眺めさ  
さんぜんせかい  
三千世界

---

ほく　　すで　　も  
僕らは既に持っていたんだ  
こざいく　　おぼ  
小細工ばかり覚えてきたけれど  
ことば　　むね　　おく  
「言葉」ならば胸の奥  
それがすべてさ

---

け　だ　　そら　　たか  
気高き空　　高らかに  
よわ　　さけ  
弱さを叫び  
み　　まと　　ほこ  
身に纏った誇りを  
す  
捨ててしまおう  
よく　　みと　　ごう　　し  
欲を認め　　業と知り  
はだか  
裸になれば  
みんな　おな　　なが  
皆同じ眺めさ  
さんぜんせかい  
三千世界

---

きみ　　な  
どうか君よ　　泣かないで  
み　　く  
この身朽ちても  
たまし  
魂はここにある  
さんぜんせかい  
三千世界



